

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【11月12月度の御金言】所対によりて罪の軽重はありけるなり。さればこの法華經は一切の諸仏の眼目、教主釈尊の本師なり。一字一点もすつる人あれば千万の父母を殺せる罪にもすぎ、十方の仏の身より血を出だす罪にもこへて候ひける。

【兄弟抄】(全集 1085 頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。

法華經法師品第十に、

善男子、善女人、我が滅度の後、能くひそかに一人の為に法華經の乃至一偈を説かん。當に知るべし、是の人は則ち如来の使いなり、如来の所遣として如来の事を行ずるなり。何に況や大衆の中に於て、廣く人の為に説かんおや。

(法華經を信心修行する男性、女性は、私(釈尊)が亡くなった後には、内緒話の様な、独り言の様な伝え方でも良いから、縁する一人一人の為に、法華經の中に説かれる一場面の話しでも、南無妙法蓮華經がどういう意味なのかでも良いから伝えて欲しい、そうする人は、仏の使いであり、仏が遣わした人であり、仏が亡くなり仏では出来なくなった事を仏に成り替わりしてくれる尊い人なのであります。ましてや大衆に対して、名聞名利無く、法華經の真意を廣く人の為に説く人は、法華經の行者として尊い。)

このように示されています。これは、釈尊が亡くなった後の時代には、釈尊を中心にした信心で無く、南無妙法蓮華經の法を中心にした信心修行をしなければいけない。そして、自分だけ信心修行して、自分だけ成仏出来れば良いという信心修行でなく、縁する人、たった一人であっても、自分が気が弱くて、勇気が無くて、話べたで、心臓が口から飛び出してしまう様な緊張する性格の人間でも、内緒話の様な、独り言の様な伝え方でも良いから、縁する大切な、成仏して貰いたい連れ合い、親兄弟、子や孫の為に、法華經の中に説かれる一場面の話しでも、南無妙法蓮華經がどういう意味なのか、一行でも、良いから伝えて欲しい。そうする人は、亡くなった釈尊が出来ない事をしてくれるのだから、釈尊はじめ一切の諸仏諸菩薩よりも勝れると、説かれているのであります。これが折伏の原点です。ですから、信仰は、信・行・学・折伏の4本の柱が、信の柱を真ん中の芯として1本になって成仏が出来るのであります。そしてこの4本の柱は全て南無妙法蓮華經の法が貫

かれています、南無妙法蓮華經の法から外れては存在しないし、4本が一本になることも南無妙法蓮華經の法ゆえであります。ですから私達は、自分の生命に具わる、一番尊い南無妙法蓮華經の仏の生命に目覚め成仏する為に、信・行・学・折伏に勤め、南無妙法蓮華經の御題目を唱える為に産まれて来たのであります。ほとんどの生命は、何の為に苦勞し、何の為に産まれて来たのか、求めながら迷い、分からないで死んで行きます。その迷いを破り、南無妙法蓮華經の御題目を唱え、自分の生命に具わる仏の生命に目覚めよと、説かれていますのが、唯一南無妙法蓮華經なのであります。